

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	①作成日 令和 7 年 6 月 2 日		
②法人・団体名	チアアップ彩たま		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	埼玉県川越市南町通 6-13-403		
④責任者氏名	浦松晶	(役職名等)	代表
⑤担当者氏名	浦松晶	(役職名等)	代表

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R06-042	⑦助成金額	30 万円	⑧申請カテゴリー	A
⑨奨学活動名	チアアップ彩たま 学習支援教室				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウェスタ川越：埼玉県川越市新宿町 1-17-17 ・ 埼玉県信用金庫 川越支店：川越市脇田本町 22-1 ・ 埼玉りそな銀行 川越支店：埼玉県川越市脇田本町 8-1 				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

- ・ 活動内容—学習支援活動：様々な背景を有した子どもたち(小学 4 年生から高校 3 年生)に対する、宿題といった日々の学習や高校・大学受験などの学習サポート
居場所支援活動：子どもたちにとって、家庭や学校とは異なる「居場所」を形成できるように、ハロウィンやクリスマスといった季節ごとのレクリエーションを実施
- ・ 活動期間—令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日
- ・ 開催回数—52 回(通常教室および講習会の合計回数)
- ・ 延べ参加者数—生徒 720 人・学習支援ボランティア 490 人

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑩及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	240 人	2.0h	480	
高校生等	240 人	2.0h	480	
大学生等				
学習支援員等	490 人	3.0h	1470	大学生等の学習支援ボランティア
その他	240 人	2.0h	480	小学生(小学 4-6 年生)
合 計			2910	

⑬その他の定量的な数値（任意）

メディア報道・記事掲載—2025 年度は NHK や埼玉新聞、テレビ埼玉などのメディア延べ 10 媒体に当団体の活動に関して、報道していただき、支援を必要とする対象者にアウトリーチすることができた。詳細は下記の URL からご確認いただける。

https://note.com/clean_gnu829/n/n6f109634b643 (当団体の公式 note 「メディア報道」のページ)

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：チアアップ彩たま学習支援教室

法人・団体名：任意団体 チアアップ彩たま

作成者 氏名：小勝周

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

当団体は、社会的背景を抱えた子どもたちに対する学習支援および居場所支援を目的とし、大学生主体で運営される学習支援教室である。川越市内に住む小学 4 年生から高校 3 年生までの児童・生徒を主な対象とし、教育格差の是正や学習機会の提供、さらには心の支えとなる居場所づくりを目指して活動を展開している。近年、「子どもの貧困」や教育格差の問題は社会的に大きく取り上げられ、その深刻さが指摘されている。特に、家庭の経済状況や地域格差に起因する学力差は、子どもたちの将来の選択肢を狭める要因となることが懸念されている。このような現状を踏まえ、教育の機会均等を確保し、すべての子どもが安心して学べる環境を提供することが求められている。

こうした問題の解決に向けて、「教育と福祉の連携」は不可欠な要素であり、地域社会全体で子どもたちを支える仕組みが求められる。特に、経済的困難を抱える家庭の子どもたちに対する支援は、単なる学習サポートにとどまらず、生活環境やメンタルヘルスのケアも含めた包括的な取り組みが重要である。地域に根差した支援活動を通じて、行政や福祉機関、教育機関との連携を深め、「切れ目のない支援」を実現することが本団体の重要なミッションの一つとなっている。

2. 実施した奨学活動の詳細

【活動内容の詳細】

当団体では 2024 年度、毎週土曜日 夜の時間帯に開催している「通常教室」および夏休みや冬休みといった長期休暇期間に開催している「講習会」を計 52 回、実施した。以下、①学習支援教室、②教室レクリエーションの 2 つの事例に分け、説明をしてゆく。

①学習支援教室

当団体では、毎週土曜日開催の「通常教室」および長期休暇期間における「講習会」を実施している。2024 年度は「通常教室」(写真 1)に加え、「夏期講習会」および「冬期講習会」を実施した。学習支援教室では、ボランティア 1 人が生徒 1-2 人を担当する「少人数 対 少人数」での形式を基本とし、一人一人の学習における習熟度や背景に寄り添った指導を実践してきた。これにより、子どもたちは個々の学習ペースに合わせたサポートを受けることができ、理解が深まりやすい環境が整った。2024 年度の学習支援教室では主に、学校の宿題やワークといった日々の学習、および、高校受験に受けた過去問等の演習が学習支援内容の中心となった。また、小学校から高校生までの子どもたちと「ナナメの関係性」を築きやすい大学生らが学習支援ボランティアの中心となって関わっており、学習のみならず、子どもたちとの「おしゃべり」などにも力を入れ、家庭や学校とは異なる子どもたちにとっての「居場所」形成にも努めた。



写真 1：通常教室の様子

2024 年度の夏期講習会では、「体験格差」が社会問題化されるなか、当団体では理系のボランティアらが中心となって、ミョウバンの結晶づくりの「自由研究」を子ども達と一緒に実施した。(写真 2)



写真 2：2024 年度 夏期講習会に実施した「自由研究」

また、上述した「体験格差」是正の観点から、当団体では大学生ボランティアが大学で専攻している学問などを子どもたちにレク形式でお伝えする「プチ講義」を実施している。2024 年度はメディア学を専攻しているボランティアが「新聞 1 面を読み比べてみよう！」という題目で行い、県紙である「埼玉新聞」および「全国紙」である朝日新聞の新聞 1 面の記事をボランティアと一緒に見比べてみて、県紙と全国紙の違いなどを考えてもらったり、「川越の新聞をつくるならどんな記事を 1 面に載せるか」などのクイズ形式のレクリエーションを行った。その他、「中国語」に関するものや「心理学」に関するプチ講義が大学生ボランティアらによって実施された。(写真 3)



写真3：2024年度冬期講習会で実施した、新聞を用いたプチ講義

②教室レクリエーション

当団体では、日々の学習や高校・大学受験といった「学習支援」に加え、「ここなら自分らしくいられる」や「ここに来たら話を聞いてくれる人がいる」と子どもたちに思ってもらえるような「居場所支援」にも力を入れている。そのような「居場所支援」において、当団体では子どもたちと大学生ボランティアが一緒に行う季節ごとの「教室レクリエーション」を開催している。2024年度は「ハロウィンイベント」および「クリスマスイベント」を実施した。

ハロウィンイベントでは、ボランティアと子どもたちが一緒になって飾りつけなどを作成するなどした。また、ハロウィンイベントでのレクリエーションはボランティアが中心となって企画し、ボランティアと子どもたちが一緒になってゲームに参加し、盛り上がった。(写真4・5)



写真4：ハロウィンイベントのレクに参加する子どもたちとボランティア



写真5：子どもたちにお配りした、ハロウィン仕様のプレゼント

冬期講習会にて開催したクリスマスイベントでは、ハロウィンイベントと同様に、飾りつけやレクリエーションを一緒に行った。同イベントの特徴として、会場をお貸しくださっている埼玉縣信用金庫 川越支店さまから生徒・ボランティア人数分のクリスマスケーキをご寄付していただき、子どもたちとおしゃべりをしながらクリスマスケーキを頂いた。(写真6・7)



写真6：2024年度クリスマスイベントの様子



写真 7：埼玉県信用金庫 川越支店さまからご寄付頂いたクリスマスケーキ

【参加人数】

生徒数：延べ 720 人・学習支援ボランティア数：延べ 490 人

【周知方法や協力いただいた関係者】

支援を必要とする対象者へのアウトリーチに関しては、当団体の公式ホームページ等での周知に加え、川越市社会福祉協議会のコミュニティ・ソーシャルワーカー(CSW)や同市内のスクールソーシャルワーカー(SSW)、同市役所職員、同市内の市民団体と連携し、生徒を紹介していただいた。

【地域やボランティア活動との連携】

川越市社会福祉協議会の協力を得ながら、市内の企業や団体、スクールソーシャルワーカー、大学のボランティアセンターや研究者とも連携し、より効果的な支援の提供を目指した。

さらに、川越市社会福祉協議会が主導する「小江戸子どもサポーターズ」にも参画し、市内の子ども支援団体と協力しながら、包括的な支援のネットワークを構築している。定期的な情報交換会を実施し、各団体の支援方針や活動内容を共有することで、より効果的な支援のあり方を模索している。特に、子どもたちが複数の支援を受けられるよう、団体間での連携を強化し、一つの支援だけでは解決できない課題に対して、地域全体で支える仕組みを作ることを目指している。

【学習支援員について】

学習支援員に関しては、川越市内または周辺地域の大学生らが中心となって、学習支援ボランティアとして活動に参加してくださった。チアアップ彩たまでは学習支援員(学習ボランティア)へのサポートとして2つの体制を整えている。1つ目は「新規参加ボランティアに対するサポート」である。学習支援の経験のないボランティアに対し、団体側からの学習支援の意義等に関する説明に加え、一定期間、学習支援の経験が豊富なボランティアと一緒に子ども達と関わってもらい、子ども達との接し方などを学んでいただいている。2つ目は「教室開催後のミーティング」である。当団体の教室には社会的背景を抱えた子ども達が一定数来ており、子ども達自身が担当しているボランティアに対し、自身の状況や悩みを話してくれることがある。その際、話を聞いたボランティアが一人で考え、対処しようとする過度にその問題を抱えこみ、悩んでしまうことでボランティア活動そのものに対するやる気が低下してしまう「バーンアウト(燃え尽き症候群)」が発生する可能性がある。当団体ではそのような状況を避けるため、毎回の教室の後、30-60分ほど時間を取り、ボランティア間でのミーティングを行っている。

生徒から聞いた悩みや状況、そして、解決策と一緒に考える機会を設けることで「ボランティア一人で抱え込んでしまう状況」を避けるようにしている。

また、本年度は大学等での「ボランティア説明会」の実施や代表による講義での登壇などを行い、15名の大学生ボランティア参加へと繋がった。

【購入した機材・物品の写真】

同助成を活用し、当団体のさらなる活動の発展のため、同市内に事務所を開設した。同事務所の物件における初期費用に助成金を活用させていただいた。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

チアアップ彩たまは、埼玉県内で社会的背景を抱える子どもたちへの学習支援・居場所支援を目的に活動を続けてきた。教室を開室してから今日まで年間の予定通り教室を実施している。2024年は第5土曜日を除く毎週土曜日や長期休暇中に計52回の教室を実施し、延べ720人の子どもが参加。生徒1人に学習ボランティア1人を基本に、生徒1~2人に学習ボランティア1人での対応を徹底したことで、ひとりひとりのニーズに応えられる居場所の機能を備えた学習支援教室を目指した。

また、広報活動にも力を入れ、新聞やテレビなどのメディアにも取り上げられたことで、地域での認知度が向上。これにより、新たな支援者や協力団体とのネットワークが広がり、活動基盤が強化された。結果、自治体の担当課から紹介されて来室する子どもが増加した。自治体の施策では対応できない「制度のはざま」にいる子どもへアプローチすることにせいこうした。さらに、川越市社会福祉協議会や「小江戸こどもサポーターズ」との連携を継続し、地域のネットワークによる包括的な支援体制の構築にも貢献している。また、代表が所属する大学での認知度も向上し、複数の講義に登壇しチアアップ彩たまの活動により得られた知見を広めた。また、学内での認知度向上により安定的な学習ボランティア確保につながった。

一方で、継続的なボランティア確保と運営体制の強化が今後の課題となる。大学生ボランティアの参加は現在安定しているものの、卒業や就職による離脱が避けられず、常に新たな担い手を確保する必要がある。そのため、大学内での募集活動だけでなく、近隣在住のボランティアへのアプローチを強める必要がある。

また、支援対象の子どもたちのニーズが多様化であり個別対応はまぬがれない。その中でも教室としての取り組み、チームとして目指すものをよりはっきりと形成していく必要がある。今後は、参加する学習ボランティアたちと対話を重ね、チアアップ彩たまの学習支援教室に求められる教室像を形成しより一丸となって支援を提供していきたい。

引き続き、地域との連携を深めながら、すべての子どもたちが安心して学び、成長できる場を提供していくことが求められる。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

当団体の教室に2年間来所してくださっている高校2年生の生徒から教室後、「私、大学生になったらチアアップのボランティア、やるね!」と笑顔で伝えてくれた。教室に参加してくれた子どもたちにとって、中学または高校卒業後も「居場所」となりうることのできる可能性を感じた。同時に、このような子どもたちとともに、川越で末永い活動を続けてゆきたいと思う。